

## 令和5年度第2回岡崎市観光基本計画推進委員会 会議録

1 日 時 令和6年2月13日（火）14時～15時40分

2 場 所 岡崎市役所西庁舎南棟3階301号室

3 委員（敬称略）

出席者：高橋一夫、岩月幹雄、八木則行、木下正章、西尾孝志、野村顕弘、  
石田浩美、渡瀬正人、中林菜穂子、杉山琢士、川辺泰正

欠席者：藤井克弘、竹内博剛

4 オブザーバー（敬称略）

出席者：榊原仁、靱井泰晴

欠席者：なし

5 事務局

経済振興部長：鈴木洋人、経済振興部技術担当部長：香村尚将

観光推進課長：加藤健一郎、同副課長：黒川憲子、同課観光推進係長：清水里美、同主任主査：杉浦美穂、同事務員：山本雄大

6 関係者

商工労政課長：木和田佐奈枝、「どうする家康」活用推進課副課長：三原裕之、まちづくり推進課長：浅井恒之

6 議題

(1) 第2次岡崎市観光基本計画（最終案）について

(2) その他

7 傍聴者

2名

8 議事要旨

—開会—

### 議題 第2次岡崎市観光基本計画（最終案）について

資料1、資料2、資料3に基づいて事務局から次のとおり説明。

・パブリックコメントを令和5年9月7日～10月6日に実施。団体・個人合計17名から63件の意見が提出された。

・それらの意見を踏まえ、目標数値を全般的に見直したほか、必要な修正を加えた最終案である。

○市内外の若者との連携と記載があるが、学生や若者が観光おもてなし活動やイベントへ参加する機会はあるのか。

事務局) 学生が得意とする観光事業への参画からスタートし、学校内の評価を経て教育カリキュラムで展開していただくことを期待している。

委員長) 今年度、近畿大学と横浜市立大学の学生が岡崎でのフィールドワークの結果をもとに市へ研究成果の発表を行った。教員や学生にとってプロジェクトベースラーニング(学生の自発性に着目した課題解決型学習)の良い機会であり、様々な大学へ取り組みが展開できるとよい。

○大河ドラマの効果は非常に高く、自分の施設ではコロナ前より観光客が増えた。特に個人客が増加し購買意欲も高かった。他の市内事業者も同様だろう。商品を置くだけでなく売り上げを増やすにはどうしたらいいか考えていくことが今後も重要だ。岡崎市は観光部門が経済振興部にあり、観光消費によって市内事業者が潤う政策が必要だ。

○今回の計画策定に関わる中で、岡崎はよいところだと再認識した。掲載されている事柄、場所、取り組みなど、自分を含め市民も知らない内容が多いのではないか。国外や県外からの観光客に限らず、市民が市内各所を訪問して体験や消費活動をするのもよいことだと思う。

○自分の団体では大河ドラマを活用した土産物の開発プロジェクトや歴史講演会等に取り組み、事業者の売り上げアップにつながった。今後も地域が儲けるためには、スポーツや祭り等のイベント情報を一元管理して見える化し、事業者へ結びつけることが有効ではないか。

○観光団体や経済団体が連携してアイデアを出すことにより、地域が儲け、事業者が喜ばば、市民満足度も高まるであろう。

○観光客が増加して土産等の売り上げもアップし、多くの事業者が潤ったと思うものの、データがないので想像だが観光消費の単価はまだ低いのではないか。高価でも価値のあるイベントや商品がもっとあってもよいと思う。観光客の増加と消費単価を上げるための取り組みがあるとよい。

○自分の知る小学生たちは「観光地に住んでいる」という意識に変わってきたようだ。籠田公園付近に散策を楽しむ観光客が常にいることなどが理由だと思う。市民意識調査の結果ではボランティア参加意向は10代が特に高いが、例えば広島では英語の堪能な小学生がボランティアで通訳をしている。そのような取り組みが岡崎にもあれば、動画配信されて広まることも考えられるし、子供たちの英語教育にもつながり、まさしく「観幸都市」になると思う。

○外国人観光客について、中国人は現金を持たず電子マネーの利用が圧倒的なので、市内の店舗も対応できるとよい。また、タイ人は歩く習慣がなく、200~300mの距離でもバイクやタクシーに乗る。東京ではタクシーの配車アプリの利用が当たり前になっている。配車アプリは、ことばの壁がある外国人だけでなく市民にとってもよいサービスであり岡崎でも普及することを期待する。

○公園について、リノベーション後の南公園に期待している。また、東公園で

は市外からの来場者らしい人が、動物に触れたりゾウのエサやりなどの体験メニューが短時間なことや実施回数の少ないことを残念そうに話していた。動物の休息が必要なことや人手の問題もあるだろうが、何か方策があるとよい。

○タクシーもバスも乗務員不足である。コロナ前と比較して多いところで3割が転職した一方、働き方改革や2024年問題もあり利用者には不便をかけている。解消に向け業界挙げて努力している。

○大河ドラマ関連では、電車の乗車券と大河ドラマ館の入場券などをセットした切符がよく利用され、大河ドラマ館入館者全体の3%ほどを占めた。バスの乗車券もセットした切符では、大樹寺や伊賀八幡宮など市内の周遊に非常に大きな効果があった。周遊促進や観光消費の増加に向けた取り組みが地域の観光に対する満足度向上に繋がる。計画に記載された内容の優先順位づけやロードマップ作成も必要だろう。

○計画の中で「若者」というキーワードが非常によい。将来的に人口が減少する中で、将来に向けて若者に地域の文化をしっかりと理解してもらうことは重要だ。

○交通事業者としては、鉄道、バス、タクシーなど既存の交通だけでは将来的に立ち行かなくなると考えており、デマンド型やライドシェア、電動キックボードなど新しいものを含めた全体的な交通計画を地域と連携しながら考えていきたい。

○自分の施設では、大河ドラマにより拝観や土産の特需があり、その収入を文化財の修復に充てることができてありがたかった。修復が必要なものはまだ多数あり事業の継続性が重要だと感じる。

○交通事業者や行政との連携は効果が高い取り組みであった。市内には眠っている文化財が多くあるが、参考に京都では普段は非公開の宝物を冬に限定公開したり、特別な御朱印を用意したり、スタンプを集めるとプレゼントがもらえるなど特別感のあるキャンペーンがある。さらに大学生が調べたことをもとに案内をしており、若者に文化財を知ってもらう意味でもヒントになる取り組みだ。大樹寺でも大樹寺小学校の6年生が自分たちで勉強しわかりやすいガイドをすることがある。子供たちや若者の参加は、地元岡崎を知ってもらい、岡崎愛に目覚めてもらうために今後ますます必要になると思う。

○大河ドラマが放送された去年は、イベントが重なり参加者が分散したことが何度もあったようだ。イベントの際の駐車場がないという話もよく聞いた。市役所も観光協会も人手不足なのかバタバタしてスムーズに情報共有できていないとも感じた。

○観光ガイドは、家康公検定の合格者を活用するのも一案ではないか。子供や英語のできるボランティアの配置も実現できるとよい。

○市内の各種団体の役員クラスでも市内の観光施設を回ったことのない人がいると聞く。大河後の集客として、団体の例会やイベントの際に市内の周遊を呼びかければ波及効果を狙うこともできると思う。

○既存の観光看板が見づらいとか、木に覆われているという話を聞く。地元や施設の協力を得てペンキの塗り替えなど可能な範囲で対応できるとよい。

○計画に掲載されている岡崎の歴史を重視したいという市民アンケートの結果は最も注目すべき点だ。自分は岡崎に生まれ育ち徹底的に岡崎を歩いている。瀧山寺の鬼祭りは素晴らしいお祭りだし運慶・湛慶作の聖観音像もぜひ見てほしい。古城では額田の滝山城、保久城、日近城、雨山城などあまり人の来ないところに貴重なものが残っている。大樹寺や伊賀八幡宮など知名度のある場所以外にも100箇所近くの家康や家臣ゆかりの地があり、地元の人たちで拾い出せば非常に面白いコースをつくることができる。今回の計画は市民のウエイトが高いと感じており、若者を含めた市民が参画し動いていくとよい。人口減の中で岡崎市が個性あるまちづくりするためには観光が中心になるべきだと思う。

○二十七曲がりの観光マップに家康公の家臣であった石川数正、大久保忠世、本多忠勝、鳥居元忠、服部正成などの屋敷があった場所が掲載されている。これらを現地に表示すれば、家康ゆかりの地だということが体感できる。

委員長) 今回の計画には記載されていないが、行政は観光地経営の政策中心で観光協会は集客のためのマーケティングを中心とした実動部隊という役割や機能の分担を明確にした方がよい。

委員長) 第2次観光基本計画最終案について、3月に公表し推進していくということで異議はないか。

○各委員とも異議なし。

## 議題 その他

### 【大河ドラマ観光の成果】

資料に基づいてどうする家康活用推進課から次のとおり報告。

- ・大河ドラマ活用の目的は、地域が儲けること、岡崎の知名度の向上、シビックプライドの醸成の3点。
- ・大河ドラマ館の入館者は約64万人で歴代4位。岡崎公園のみやげ店の売上は目標の2倍以上。市内の事業者・商品を中心に扱い、ショーケース的な役割も果たした。
- ・主なイベントは、プレミアリレー、パブリックビューイング、美術博物館の特別展など。大河ドラマ出演者に何度も来ていただけた。
- ・PRプロモーションとしては、交通事業者とのタイアップや誘客活動。雑誌・新聞・テレビ等での広告は費用に換算すると約16億円。
- ・今年からのアフター大河に向け、よいスタートが切れる位置に立っていると認識している。

### 【オブザーバーの意見等】

○観光協会は関係団体等の皆さんに支えていただきながら観光基本計画の実動部隊として事業に取り組んでいきたい。

○大河ドラマ関連の活動では、市内の皆さんが商品開発や売り上げ増などのた

めに非常に力を尽くされたと感じている。例えば「まちづくり岡崎」では、岡崎公園の中だけでなく周辺での消費増加のため家康ゆかりの場所と店舗を紹介する冊子を自ら作成した。大変好評で2万部ほどが配布された。地元の皆さんの要望に対して支援ができるような観光協会でありたい。

○「観幸」というタイトルは、観光客の感動を市民の幸せにつなげるということだが、市民の感動も観光につなげるべきではないか。

○観光消費額の目標について、愛知県の計画における2019年比25%増を岡崎に当てはめ、日帰り・宿泊観光客の消費額合計28,000円の25%増としているが、岡崎は高級ホテル街もなく日帰りが多いことや中国人の爆買いブームが不景気により去ったことを考えると懸念を感じる。

○若者の参加促進は非常に重要だ。愛知県では全国旅行業協会とも連携し観光まちづくりアワードを開催している。学生を含めた参加者により着地型旅行プランを作成し発表するもので、今年は県内で生産の盛んな花きをテーマにしたプランなどの発表があった。学生が地元を知るよい機会なので岡崎市内の高校・大学からの参加も期待する。

○マーケティングは、データを集めるだけでなく活用やマネジメント、データの見える化が必要である。

○岡崎で宿泊する観光客は少ない。岡崎だけでなく県内を周遊してもらつもりで誘客を図るとよい。

○駅での看板や地図は重要だ。外国人が名古屋駅に到着した際も周辺の地図を入手し現在地を確認してから自分のスマートフォンで場所を検索することがよくある。

—閉会—